

(添付ファイル 第8号様式)

平成30年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年 ↘ 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
							用地費	進捗率				
河川総合開発事業	18	鳥羽河内ダム建設事業	鳥羽市	④	【全体事業概要】 鳥羽河内ダム ダム形式:重力式コンクリートダム ダム高 39.0m 洪水調節容量 2,863千m3	H9	4,874	32%	平成28年 用地補償着手 平成29年 工事着手 平成35年 本体工事着手予定 平成40年 完成予定 ・鳥羽市の人口は緩やかな減少傾向だが、世帯数に大きな変化はない。 ・鳥羽河内ダムは、平成29年の三重県観光入込客総数の約1/4を占める約1,100万人が訪れる伊勢志摩地域に位置している。平成28年には伊勢志摩サミットが開催されたことから、当地域は、今後とも観光地としてのさらなる振興が期待されている。	総便益/総費用 B/C=231億円 /178億円 = 1.30	平成30年度までに用地買収を完了させ、平成35年度より本体工事に着手予定。	
					~	3,771	27%					
					H40	1,103	91%					

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業

平成30年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業区分	番号	事業名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況				事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し
							総事業費	進捗率	事業進捗内容				
							うち工事費	進捗率					
							うち用地費	進捗率					
海岸事業	14	井田地区海岸(海岸高潮対策事業)	紀宝町	③	【全体事業概要】 事業延長 3,200m 事業概要 人工リーフ11基(2,846m) 堤脚保護工 9基(354m) 【目的】 当地区海岸は平成6年台風26号、9年台風7号により、海岸堤防が破堤し、国道42号が通行止めになったほか、平成16年台風16号でも人工リーフ未整備箇所では海浜が国道42号近くまで侵食される被害を受けました。背後地には、第一次緊急輸送道路である国道42号やJR紀勢本線(紀伊井田駅)、紀宝町役場井田支所、井田小学校、井田保育所などの重要な施設があり、沿岸(リーフ)部での碎波による波の打上げ高の低減や侵食が進む海浜の安定を図り、高潮時の波浪に対する住民の安全を確保するとともに国土を保全するため高潮対策事業を進めています。	H3	19,590	80.7%	【整備済み内容】 事業延長 3,200m 事業概要 人工リーフ10基(2,269m) 堤脚保護工 8基(314m)	【社会的状況の変化】 紀宝町全体では、人口・世帯数とも近年は減少傾向にありますが、井田地区は、人口・世帯数とも大きな変化はありません。	【費用対効果分析】 B/C=1.31 【コスト削減】 鵜殿港の岸壁背後で被覆ブロックを製作し、運搬に係るコスト削減を図っています。また、他工事で発生した転石等を再利用し、使用材料のコスト削減に努めていきます。 【代替案】 侵食が進む海浜の安定を図り、高潮時の波浪に対する安全性を確保するためには、海面上に消波ブロックが突出した離岸堤や海岸線上に消波ブロックで堤体を築く消波堤などの整備が考えられます。井田地区海岸は、国立公園の指定、残すべき美しい浜辺としての選定や世界遺産登録などから、景観の保全が必要です。このため、海面上に施設が現れない人工リーフを選定しており、代替案は考えられず、現計画で整備を進めることが妥当と考えています。	【今後の見通し】 早期完成を目指し、当地区に重点投資を行い、事業を推進していきます。	
						S	19,590	80.7%					H44

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間を経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業

平成30年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						総事業費	総事業費					
						前回	前回					
海岸高潮対策事業	504	鳥羽港海岸	鳥羽市	<p>【全体事業概要】 (岩崎地区) 護岸(改良) L=478m 陸間(改良) N=6基 (中之郷地区) 陸間(改良) N=4基</p>	H25	2,595.5	<p>○事業の効果 整備前は、老朽化した護岸に高潮・高波等の大きな波の力が作用することにより、上部工のひび割れが拡大し、施設が崩壊することが懸念されていました。また天端高も不足していたため、台風等の高波浪時に波が既設護岸を越えて、背後地の建物等に浸水する越波・越流被害の発生が懸念されていました。 護岸を整備・改良することにより、高波浪時における護岸の崩壊を防ぎ、天端高を嵩上げたため、高波等が護岸を越波・越流することがなくなりました。このため、陸域への海水の浸入がなくなり、背後地の民家、事業所等への被害が防止されています。</p>	<p>○事業実施上の環境面への配慮 コンクリートがアルカリ性を示すことから、鳥羽港の水素イオン指数(pH値)の増加について確認したところ、平均値は8.1~8.3の間を推移しておりますが、事業中、事業後において、pHが上昇傾向を示していないことから、事業実施に伴う水質の変化は環境の変化ないと考えております。</p>	<p>○社会経済情勢等の変化 鳥羽市鳥羽地区の人口は年々減少傾向にあり、少子高齢化が進んでいる状況にあります。それに伴い、護岸の防護対象も将来的に減少していくことが考えられます。ただし、観光施設への入込客数については、ほぼ横這い状況にあります。</p>	<p>○アンケート調査の概要 防護対象の住民及び労働者に対してアンケート調査を行いました。 (配布部数 356部、回収部数 157部、回収率44.1%) ○事業の認知度 ・「知っている」の割合は58.0%。 ○安心感の変化 ・「安心感が増した」「どちらかというど安心感が増した」の割合は50.9%。 ○地震・津波への意識 ・当護岸が津波に対して防護するものではないと「知っていた」の割合は69.4%。 ○安全面への評価 ・「満足」「どちらかといえば満足」の割合は24.2%。 ○景観面への評価 ・「満足」「どちらかといえば満足」の割合は37.6%。 ○海岸利用への評価 ・「満足」「どちらかといえば満足」の割合は30.6%。 ○事業費への評価 ・「安い」「どちらかといえば安い」の29.3%。 ○事業全体への評価 ・「満足」「どちらかといえば満足」の割合は38.2%。 ○当海岸に対して求めたい対策 ・「老朽化対策」をしてほしいという意見が最も多い。 ○維持管理に関する評価 ・「満足」「どちらかといえば満足」の割合は39.4%。 ○今後の海岸事業に求めるもの ・「津波対策」をしてほしいという意見が最も多い。</p>	<p>・護岸・陸間のライフサイクルコストを意識した、適切な維持管理を行います。 ・津波対策について、護岸等のハード面に対応するには限界があり、津波の規模によっては護岸を越流し、浸水被害の恐れがあることから、津波発生時には早急な避難が行えるようにソフト対策を市と連携して進めます。 ・海岸線を美しく保ち、海岸利用を促進する必要があります。そのために台風の通過後などに監視を行い、適宜、海岸清掃を行います。</p>	
				<p>【事業目的】 当海岸の既設護岸は、当時老朽化が進行しており、天端高も不足していたため、一刻も早い施設整備が望まれていました。当該事業は護岸の整備や改良を行ったことにより、波浪や高潮等による災害を防除し、護岸背後の生命と財産を守るための事業です。</p>								H3
					H24	1,548.2						